

大学コンソーシアムあきた

設立1年目のあゆみ



設立趣意書

社会の成熟化による人々の価値観の多様化、科学技術の発展と技術革新による産業構造の変化、国境を越えて人や物が自由に往き来するグローバル化などを背景に、日本社会と経済は大きな転換点にあると言われている。こうした中、高等教育を取り巻く環境は、18歳人口の減少などによる大学間の競争の激化や、国や地方公共団体の行財政改革などにより、一層厳しさを増している。

一方、大学は学生のための教育機関としてだけではなく、大学が地域社会や産業界との結びつきをより一層深めることによって、大学の知的活動が社会をリードし、社会の発展を支えていくという重要な役割を果たすことが求められている。言い換えれば、社会人や高校生に対する学習機会の提供や産学連携による共同研究、学術文化情報の発信など、地域における学問や技術、文化の拠点として、様々な機能が期待されているのである。

こうした中、秋田県内の高等教育機関が厳しい環境を乗り越え、県民の多様なニーズに応じていくためには、互いに連携してそれぞれの持つ資源を有効に活用することによって、地域の高等教育機関全体の教育及び研究水準の一層の向上を図る必要があると考える。

ここに、秋田県内の高等教育機関が連携・交流することにより、それぞれの教育・研究機能の強化を図り、その成果を地域社会に還元し、地域の発展に貢献することを目的として、大学コンソーシアムあきたを設立する。

平成17年3月29日

秋田大学学長
秋田県立大学学長
国際教養大学学長
秋田経済法科大学学長
秋田看護福祉大学学長
秋田公立美術工芸短期大学学長
秋田栄養短期大学学長

聖霊女子短期大学学長
日本赤十字秋田短期大学学長
聖園学園短期大学学長
秋田工業高等専門学校校長
放送大学秋田学習センター所長
秋田職業能力開発短期大学校長



ごあいさつ

大学コンソーシアムあきた

理事長 **三 浦 亮** (秋田大学学長)

「大学コンソーシアムあきた」は、県内の大学、短大等13の高等教育機関が連携・交流することにより、それぞれの教育・学術研究機能の水準を高めるとともに、その成果を地域社会に還元し地域の発展に貢献することを目的に、平成17年3月29日に設立されました。

大学の教員は、同じ秋田に居て似たような分野の研究をしていますが、なかなか互いに顔を合わせる機会がないばかりか、実はよく知らないということの方が多いためです。専門分野が異なる教員同士であれば、なおさらのことです。

それが、このコンソーシアムの設立によって、ごく自然に顔を合わせる機会ができたのです。それを一番強く感じたのは連携公開講座です。

昨年度実施した3つの連携公開講座のうち「高齢化対策～明るく、しなやかに、したたかに」を例にとれば、医療や保健の専門家は身体や精神の「老い」に対する科学的なアプローチや食生活による病気の予防について、また建築学の専門家は寒冷地における脳卒中と住宅の問題、保育の専門家は幼児との交流が高齢者に与える影響について、社会福祉の専門家は高齢者の生きがいづくりやボランティア活動について、さらには法律の専門家は遺言の書き方や財産管理の問題について等々、高齢化と一口に言っても様々な学問分野から捉えることができ、それによって問題の総合的な理解への道すじが開かれました。

こうした取り組みは、まだ緒に付いたばかりではありますが、画期的なことと考えます。大学関係者や研究者同士が相互に知り合い、連携の手がかりになるような場ができたことに大きな意義を見出せると思います。

今後はさらに一歩を進めて、異分野の研究者による共同研究の広がりにより、秋田をフィールドとした政策提言などができればと考えております。

このほかにも、高大連携授業では前後期あわせて5百人余という多くの高校生が大学の授業を学んだほか、高等教育機関相互の単位互換なども行っています。県が秋田市中通の明德館ビルに開設した「カレッジプラザ」という拠点とも相まって、手前味噌になりますが初年度の取り組みとしてはまずまず及第点をいただけるのではないかと自負しております。

二年目となる平成18年度は、教養から実学まで多彩なテーマで社会人向けの講座を行うほか、大学事務局職員の共同研修にも新たに組み込むことを予定しています。

全入時代を目前にして大学にとっては大変厳しい状況ではありますが、多くの可能性を持つ「大学コンソーシアムあきた」の活動が各大学や地域にとって意義のある存在となりたいものと念じております。関係者の皆様の特段なるご理解、ご支援はもとより、様々なご提案をいただきますことをお願い申し上げます。

■単位互換授業

○17年度実績

<前期>提供科目数398、履修登録者15人(実人員14名)
<後期>提供科目数267、履修登録者13名(実人員13名)

○カレッジプラザ開講科目

①現代経済事情—就職活動の経済常識 H17.5.24~7.2
<経済法科大学経済学部>土曜午後2コマ8回、計15コマ
履修登録者10人

②食生活の科学(秋田の食) H17.8.6~8.9
<秋田大学教育文化学部>夏期集中4日計15コマ
履修登録者6人、大学コンソーシアムあきた聴講生5人

○単位互換履修ガイドブック

印刷部数 2,700部
(学生数の約3割相当数を作成し配布、アンケートも実施)

■連携公開講座

テーマ1 「観光立県を目指して」

コーディネーター 勝又美智雄教授(国際教養大学)

参加機関

秋田大学、国際教養大学、秋田経済法科大学、秋田公立美術工芸短期大学

講師
道端 忠孝氏 秋田経済法科大学法学部教授(第1回担当)
松村 公明氏 秋田大学教育文化学部助教授(第2回担当)
勝又美智雄氏 国際教養大学教授(第3回担当)
石川 好氏 秋田公立美術工芸短期大学学長(第4回担当)

日時

- 第1回 9月24日(土) 13:30~15:00 33人
秋田県の観光の現状やこれまでの取り組みについて整理する総論編。他県の取り組み例なども織り交ぜながら、「今なぜ観光立県か」を明らかにする。
- 第2回 10月8日(土) 13:30~15:00 23人
観光政策にまつわる内容の紹介や各論の展開。先進的な取り組みの紹介や観光拠点性などを検討する。
- 第3回 10月22日(土) 13:30~15:00 21人
行政として何をしなければならぬのかについて、秋田県の観光政策「秋田花まるっ観光振興プラン」の見直しに検討委員会座長として関わった立場から、行政、民間企業・団体などとの連携のあり方や活動内容について提言する。
- 第4回 11月5日(土) 13:30~15:00 24人
秋田を舞台としてどのような観光振興・地域振興が考えられるのか将来的な夢を描く。

テーマ2 「景観・美観の再生と創造—美しい秋田市づくりを目指して」

コーディネーター

平野庫太郎教授(秋田公立美術工芸短期大学)

参加機関

秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、秋田経済法科大学、秋田公立美術工芸短大、秋田工業高等専門学校、秋田市都市整備部

受講登録 61人

日時

- 第1回 12月10日(土) 13:30~15:30 34人
- 1部 景観に関する秋田市の現状と取り組みについて
<講師 秋田市都市整備部長 豊嶋太朗氏>
秋田市の景観に関する現状、規制・誘導等行政の取り組みを紹介
- 2部 会場参加型公開討論会「美しいまちって」
<コーディネーター 秋田公立美術工芸短期大学教授 平野庫太郎氏>
テーマに関する多様な意見開陳とディスカッション。秋田には何が必要かを会場参加型で進行
- 第2回 12月17日(土) 15:30~17:00 21人
<美しいまちづくりに向けて>
- 1部 古建築と町並みづくりについて
<講師 秋田公立美術工芸短期大学教授 澤田 亨氏>
- 2部 景観美観における暖簾、看板、サイン、ファサードデザインの機能と役割
<講師 秋田公立美術工芸短期大学助教授 官能右泰氏>
- 3部 「再生から創造へ」まちづくりに向けての提案
<講師 秋田公立美術工芸短期大学講師 石垣 充氏>
- 第3回 1月21日(土) 13:30~15:00 20人
- 1部 街を美しくする工夫
<講師 国際教養大学教授 ジョン・モック氏>
文化人類学・都市社会学の観点から都市計画のあるべき姿を示す

2部 建築デザインと都市景観—評価と予測について—

<講師 秋田工業高等専門学校助手 恒松良純氏>
建築デザインが都市に与える影響と予測の方法から、景観計画への指針を提案する

第4回 2月4日(土) 13:30~15:00 18人

1部 秋田らしい「みどり」について考えよう

<講師 秋田県立大学生物資源科学部助教授 蒔田明史氏>
都市景観における樹木や緑化の役割から、地域特性を表現する秋田らしい緑化のあり方を検討

2部 あきたの住宅と街並み

<講師 秋田県立大学木材高度加工研究所教授 飯島泰男氏>
住宅が街並み景観に及ぼす効果について、建築学的・工学的視点から分析・提案する

第5回 2月11日(土) 13:30~15:00 25人

1部 街なか住宅地における景観変容と住民意識

<講師 秋田経済法科大学経済学部講師 上村康之氏>
景観悪化や未整備により環境評価を下げている事例を紹介。住宅地の景観保全を考える

2部 美しい景観と景観経験

<講師 秋田大学工学資源学部教授 木村一裕氏>
まちや自然、文化に対する経験と景観認識の関係から、美しい景観形成について考える

シンポジウム 2月18日(土) 13:30~16:00 65人

1部 基調講演「市民参加による景観まちづくり」

<講師 国土交通省 都市・地域整備局都市計画課 課長補佐 岸田里佳子氏>
景観法など景観緑三法について成立過程や必要性、基本理念などを地域の例を含めて紹介

2部 学生合同グループの研究報告

<秋田大学工学資源学部、秋田高専環境都市工学科、公立美短産業デザイン学科>
「秋田の未来を考える つくろう!美しいまちなみプラン」いつまでも残したい風景!世代を超えて伝えたい街なみ!将来残したくない風景・変えたい町なみ~

3部 パネルディスカッション

語り合おう 美しいまち秋田の実現に向けて
<コーディネーター 公立美短教授 平野庫太郎氏、4大学3団体からパネリスト7名>

◎この事業は秋田市との連携によるまちづくり方策調査として「国土交通省都市・地域整備局 平成17年度都市再生プロジェクト推進調査費」に採択され実施しました。
採択名 「大学コンソーシアムあきた」と「秋田市」との連携によるまちづくり方策調査 ~美しいまちづくりに向けた学官の協働体制の構築~

テーマ3 「高齢化対策~明るく、しなやかに、したたかに」

コーディネーター 古田重明教授(秋田経済法科大学)

参加機関

秋田大学、秋田県立大学、秋田経済法科大学、秋田看護福祉大学、秋田栄養短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学

講師

出雲 祐二氏 秋田看護福祉大学社会福祉学科教授(第1回)
岩谷 隆博氏 日本赤十字秋田短期大学助教授(第1回)
腰山 豊氏 聖園学園短期大学教授(第2回)
松本 真一氏 秋田県立大学システム科学技術学部教授(第2回)
小笠原サキ子氏 秋田大学医学部保健学科教授(第3回)
佐藤 実氏 秋田栄養短期大学教授(第3回)
古田 重明氏 秋田経済法科大学法学部教授(第4回)

受講登録 173人

日時

- 第1回 12月3日(土) 13:30~15:00 105人
秋田県の高齢者の特徴と将来、取り巻く環境などについて、現状認識と整理を行う総論編。介護や医療を必要とする高齢者への施策の紹介、また、高齢者の生きがいづくりや社会参加、ボランティア活動の例などについても紹介する。
- 第2回 12月17日(土) 13:30~15:00 90人
高齢者と幼児のかかわり、幼老交流の実情と課題や幼老複合施設の状況についての紹介、住環境が高齢者に及ぼす影響や住環境と脳卒中の関係などについて紹介する各論編。
- 第3回 1月14日(土) 13:30~15:00 76人
「老いる」ことについて、身体の形態的変化や機能的変化とその受容、精神的な変化について紹介、「老いる」ということを科学的に理解し、あわせて老いても健全な食生活を保ち病気を予防する工夫について紹介する。
- 第4回 1月28日(土) 13:30~15:00 93人
判断力があるうちに自らの財産を守り、後顧の憂いがない安心老後を過ごすための法的方策について紹介する。

カレッジプラザ開設記念シンポジウム

平成17年5月13日（金）にカレッジプラザ開設記念シンポジウムを開催しました。

明德館ビル2階にオープンしたカレッジプラザのPRと、より効果的な活用方法や大学連携の在り方などについて語り合う、カレッジプラザ開設記念シンポジウムが5月13日（金）同プラザ講堂で開催されました。

カレッジプラザは、秋田県内の高等教育機関（大学、短期大学、高専など）が持つ教育研究資源を広く県民に開放して、専門知識や広い視野を身につける教育サービスを提供する連携拠点として開設されました。大学の公開講座や社会人向けのリカレント教育の場のほか、高校生に大学の講義を体験してもらう高大連携授業の場として、高校生から社会人までが集う「学びの場」となります。



三浦理事長のあいさつ



寺田知事のあいさつ

寺田知事は「資源に限りがある日本社会において、秋田県が生き残るためには『人づくり』こそが大切な県政課題です」と述べ、「県民の皆さんに講座などを活用していただき、このカレッジプラザから人づくりの輪が広がるように進めていきたい」と開会のあいさつをしました。

つづいて、金沢大学共通教育機構長の田中一郎教授から、「学都金沢の挑戦」と題しての記念講演がありました。「石川県には100万人の人口に対して19の高等教育機関があります。この数は少子化傾向のなかでは過剰ですが、肯定的に考えると、ひとつの大学ではできない教育が、複数で連携することによりできる教育として提供することが可能です」と述べ、石川県における高等教育機関の連携の取り組みについて紹介しました。また、「県外から秋田の大学に入学した人が『秋田に来てよかった、未来が開かれた』と思えるよう、学生に対しては将来的な夢の実現に向けた道筋を示し、フォローしていくことが大切」と秋田へのアドバイスもありました。

休憩をはさんで、「秋田発・大学の挑戦～連携という一歩から」と題したパネルディスカッションが行われました。パネリストとして秋田大学の三浦亮学長、秋田経済法科大学の稲田俊信学長、能代高等学校の菊谷一校長が参加、田中一郎教授もアドバイザーとして加わり、国際教養大学の勝又美智雄教授がコーディネーターを務めました。



金沢大学の田中教授による記念講演



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションでは、県内の高等教育機関が連携・交流することで、それぞれの教育研究機能の水準を高めるとともに、その成果を地域社会に還元し、地域の発展に貢献することを目的として今年3月29日に設立された「大学コンソーシアムあきた」の今後の活用方法などを中心に意見交換が行なわれました。



左から勝又教授、田中教授、菊谷校長



教養大サテライト教室

(県情報公開課HP「取材だより」より)

大学コンソーシアムあきた特別企画

鈴木昭憲秋田県立大学学長記念講演会

鈴木昭憲秋田県立大学学長が平成18年3月末をもって退任されるにあたり、大学コンソーシアムあきた特別企画による記念講演会を開催しました。



平成11年の県立大学開学当初から学長を務め、3月末で退任することとなった鈴木昭憲学長の記念講演会が、コンソーシアムあきた主催で3月2日（木）明徳館ビル（秋田市）のカレッジプラザ講堂において開催されました。

鈴木学長は、長年にわたり生物有機化学の研究・教育に務め、昆虫の脱皮・変態現象に関するホルモンを始めとする研究分野で優れた業績をあげています。

その功績により平成17年度文化功労者に選ばれ、また平成18年1月に皇居で行われた「講書始めの儀」において進講者を務めました。

講演会では「学研の徒と共に」というテーマで、昆虫の脱皮・変態現象を支配するホルモンの研究に取り組んだきっかけや、面識のなかった海外の研究者と共同研究を行ったときのエピソード、県立大学の創設から現在までの思いについて語り、集まった関係者や県民の皆さんが熱心に聞いていました。

講演の中で鈴木学長は、10年以上かかって前胸線刺激ホルモンの化学構造を突き止めたことに触れ、「長い時間を必要とする研究には、結果の出ない作業に取り組む若手研究者を盛り立てていくことが必要。また、リーダーとして目標をはっきり見せること、目標に向かってひるまないで取り組むことが重要だ」と語りました。

また、県立大学への思いとして「私は、県立大学の基盤は地域貢献だと考えている。教育、研究、社会貢献のすべての分野で、県立大学の存在自体が地域に貢献していると県民の皆さんから言われるような大学になることを期待している」と話していました。

(県情報公開課HP「取材だより」より)

■ 高大連携授業

高校生が学問への関心を高めたり、進路決定の参考としたりすることができるよう大学・短大等の授業を提供するものです。

◎前期開講科目	開講期間：5/16～7/29	受講者数
英語文化・言語・教育・コミュニケーション学入門（秋田大学）		38人
芸術文化史入門（秋田大学）		13人
現代生物学入門（秋田大学）		31人
看護学（秋田大学）		49人
秋田から国際人を目指して（国際教養大学）		41人
ナニはさておき、どいつもこいつも、三度のメシより工芸？（美工短大）		21人
伴奏法（聖霊短大）		9人
社会福祉の動向（日赤短大）		22人
保育原理（聖園短大）		83人
看護学（日赤短大）2日間集中講義		68人
10科目（受講実人員332人） ※人数は科目延べ数		375人

◎後期開講科目	開講期間：10/4～12/17	受講者数
高校生のための心理学（秋田大学）		53人
バイオテクノロジー（県立大学）		22人
システム科学技術の世界（県立大学）本荘開講、プラザ遠隔講義		15人
秋田から国際人を目指して（国際教養大学）		16人
物理学・化学の魅力（国際教養大学）		9人
文化人類学への招待（経法大）		7人
現代社会と経営（経法大）		8人
看護学を知る（看護福祉大）	大館開講	13人
社会福祉ってなに（看護福祉大）	大館開講	13人
ナニはさておき、どいつもこいつも、三度のメシより工芸？（美工短大）		8人
かたちづくる世界（公立美短）		30人
健康と食生活（秋田栄養短大）		30人
地球温暖化とエネルギー問題（放送大学）		5人
13科目（受講実人員201人） ※人数は科目延べ数		229人

◎受講者の内訳

○男女別（実人員）

		17年度〈後期〉	17年度〈前期〉	16年度
男	性	42人（20.9%）	33人（9.9%）	48人（15.5%）
女	性	159人（79.1%）	299人（90.1%）	262人（84.5%）
合	計	201人（100.0%）	332人（100.0%）	310人（100.0%）

○地域別受講者数（実人員）

	17年度〈後期〉	17年度〈前期〉	16年度
鹿角小坂地域	0人（0.0%）	1人（0.3%）	0人（0.0%）
大館北秋地域	7人（3.5%）	0人（0.0%）	1人（0.3%）
能代山本地域	17人（8.5%）	13人（3.9%）	7人（2.3%）
秋田男鹿地域	139人（69.1%）	238人（71.7%）	250人（80.6%）
本荘由利地域	28人（13.9%）	60人（18.1%）	34人（11.0%）
大曲仙北地域	9人（4.5%）	15人（4.5%）	13人（4.2%）
横手平鹿地域	1人（0.5%）	5人（1.5%）	5人（1.6%）
湯沢雄勝地域	0人（0.0%）	0人（0.0%）	0人（0.0%）
計	201人（100.0%）	332人（100.0%）	310人（100.0%）

○学年別（実人員）

	17年度〈後期〉	17年度〈前期〉	16年度
1年生	53人（26.4%）	44人（13.3%）	72人（23.2%）
2年生	95人（47.2%）	104人（31.3%）	126人（40.7%）
3年生（定時制4年含む）	53人（26.4%）	184人（55.4%）	112人（36.1%）
計	201人（100.0%）	332人（100.0%）	310人（100.0%）

■ 広 報

○大学コンソーシアムあきた活動情報

- ・地元紙及び各中央紙地域版への情報提供

○各事業の開講情報提供

- ・県政ラジオ・テレビ番組を活用した広報活動
- ・ABSラジオ「花咲け年輪倶楽部」放送
- ・魁新報（暮らし詳報欄）への開講情報提供
- ・中央紙地域版への開講情報提供

○カレプラニュースの発行

- ・月刊カレプラニュースの発行
- ・カレプラカレンダーの発行
- ・ビル屋外掲示板月次開講情報

○ホームページの運営

- ・カレッジプラザの施設案内
- ・事業案内、開講情報提供

[秋田県公式サイト] 美の国あきたネット Home

【<http://www.pref.akita.lg.jp>】

教育・文化・交流



大学・学校



大学・学校

県内の大学・短大、専修・各種学校のほか、カレッジプラザなどに関する情報を提供しています。

県内の大学・短大 / 県内の専修・各種学校 / カレッジプラザ / 大学コンソーシアムあきた / 国際教養大学AIU / 単位互換 / 県内高等教育機関へのリンク

■ 平成18年度 事業計画

大学間連携を 推進します

- ① 単位互換協定の運営
- ② 単位互換授業シラバス・受講ガイドの配布
- ③ カレッジプラザ開講の単位互換授業提供
- ④ 大学コンソーシアムあきた聴講生受入
- ⑤ 大学職員研修の実施

地域貢献活動を 推進します

- ① 連携公開講座
- ② 高大連携授業
- ③ 社会人講座
- ④ 活動事業の広報

全国の 大学コンソーシアムと 交流します

- ① 全国大学コンソーシアムとの情報交換
- ② 研究交流フォーラムへの参加交流

〈連携公開講座〉

複数の大学がそれぞれの特色を発揮して相互に連携し秋田県の課題解決を図る公開講座を企画・実施します。

- テーマ1「観光立県を目指して」
- テーマ2「高齢化対策」

〈社会人講座〉

継続的かつ体系的な専門知識習得など高度な教育機会を提供。職業人の知識更新に役立つ双方向的な授業。

カレッジプラザ

〒010-0001 秋田市中通2-1-51 明德館ビル2F
カレッジプラザ内 大学コンソーシアムあきた
Tel 018(825)5455 Fax 018(836)5388

